

1. [子育て支援について]

大東町会場（佐世交流センター）

Q1：子育て支援について市が力を入れているとのこと、認定こども園もできている。大東町は保育園が充実しているし、小学校区に幼稚園もあるのだが、佐世のことを聞きたい。佐世幼稚園は現在13人入園している。3歳児3人・4歳児6人・5歳児4人に対して、25年度の現場の教職員の配置は、園長・教頭は小学校と兼務してもらっており、統括教諭1人と講師1人の2人で教育に携わっている。特に3歳児の3人は家庭にいた子どもであり、大人に頼ったり、大人に認められたいという思いは保育園も幼稚園も同じと思う。統括教諭は外部的対応もあり、園経営のこともあり、実質外部講師の方に委ねられている。園外活動に出かける時、バスに乗せる時、集団の場合は先頭・中・最後尾と最低限3人は必要。3歳児は集団の中では大人が手を添えないとわからない現状がある。1人職員が休んだときの対応が大変だったと聞いた。電話をかけまくって、急遽今まで幼稚園におられた方に来てもらったと聞いた。不安定な状況の中、外から来られた人には、佐世幼の子どもたちは少人数だけど元気だと言ってもらっている。先生方の日夜の努力は大変だと思う。幼児教育について、もう少しきめ細やかな対応をお願いしたい。昨日も原発の講演会で講師の方が、ハードを整えても、最終的には人の対応が一番だと言われた。小さな子ども達に対しては、きめ細やかな働きかけ、見守ったり導いたりすることが大切だと思う。佐世幼稚園を含めて、幼稚園に対してももう少し配慮をしていただきたい。

A：幼児期における教育はきわめて重要と考えている。佐世幼稚園は13名で昨年の2クラスから1クラスとなり、3・4・5歳混合となった。従って私どもの規定により職員を1名減とした。統括教諭と講師で対応している。3歳児はどの園でもおしめがなかなか取れない状況で、4～6月の現場が大変。その園児の数、状況によってどうしてもという場合には、支援員を時間で配置する体制も取っている。園外活動についても、園長先生・教頭先生など小学校との連携、あるいは地域での支援・サポートをいただくようお願いしている。決しておろそかにしているということではない。特に特別な支援が必要な子どもに対しては支援員の配置をしている状況もある。（教育長）